

耕作放棄地で新たな農業

鈴鹿ブレインヴィレッジ 事業計画を発表

燃料用芋を生産

特定農薬の研究も

【鈴鹿】鈴鹿市内の事業所などで昨年六月に設立した鈴鹿ブレインヴィレッジ(会長・国吉修司エース設備社長)は二十三日、耕作放棄地を利用した燃料用芋の生産や、特定農薬の研究を進める「ニューファームプロジェクト」の事業計画を発表した。



燃料用に乾燥させた芋チップの試作品を紹介する国吉会長
＝鈴鹿市役所で

中心となるバイオマスプロジェクト事業では、協賛農家が石薬師町に借りた耕作放棄地、約八十町で燃料用のサツマイモを栽培。収穫後は乾燥させてチップ状にし、燃焼用の固形燃料や熱分解ガス化燃料として、利用法を研究する。

また特別栽培プロジェクト事業として、人体に害の少ない微酸性電解水を協賛農家でのトマト栽培に活用。病原菌の防除効果のある特定農薬として使用できるか、データを計測しながら研究を重ねる。市内に約四百八十町あるとされる耕作放棄地対策と、新たな農業の産業化が目的といい、国吉会長(左)は「活性化につながるれば」と期待を込めた。

来月二日午前九時から、同市石薬師町で芋の開墾式を開催。同日午後二時から、同市白子町の鈴鹿高専三階第一会議室で説明会を開く。参加無料。問い合わせは鈴鹿商工会議所事務局
電話059(3382)3222へ。(小林哲也)